

---

---

2015 年度（平成 27 年度）

# 事業計画書

平成 27 年 3 月 27 日

学校法人 玉手山学園

---

---

## I. 事業計画策定にあたって

### 学園は「夢」に近づくとこころ 「夢」と「志」を大切に

学生・生徒・園児(以下、学生と称す)そして教職員の皆さまは、それぞれの「夢」に近づくために玉手山学園にいます。「志」とは何でしょう。夢に近づくためのエネルギー、その気・本気になることでありましょう。その「志」はどうやって立てるのでしょうか。学園生活の中で色々な感動・感謝を体験し、刺激を受けることが志を立てる(その気・本気になる)大きな機会・キッカケになると思います。

### 学園“元気”メソッド 感動・感謝の体験 地域との連携もチャンス

「この学園に入ったら、元気・やる気が出てきた。」そんな学園でありたいと願っています。それが偶然ではなく、必然である学園にしたいと願っています。そのために「学園と地域との連携」も大きな可能性を持っています。街のために何かを行い喜んでもらえば、学生たちも成長できます。彼らが成長すれば教職員も成長できます。また学園内にも感動・感謝の色々な“粋な”取組があります。学生そして教職員が元気になる、本気になる、その仕組みを「学園“元気”メソッド」として目に見える“モノ”にしていきたいと考えています。

### 第2期(2013～2017) 学園中長期計画推進中

#### ～チャレンジ精神 高校に新校舎 大学に5学部6学科構想～

玉手山学園に入学した若者を少しでも伸ばして世に送り出し、豊かな社会構築に寄与するという学園の使命を果たすために、第2期(2013～2017)学園中長期計画を元気に推進しています。学園の「経営理念とビジョン」の具現化に向け、“For the students”の視座から、彼らに伸びてもらうための基本がここに示されています。2015年夏に竣工予定の短期大学新校舎に続き、高校にも新校舎を建築する計画が本格的に始動します。高校2号館(グラウンド傍)を2015年度中に解体、新校舎は2017年3月竣工の予定です。高校教職員が創意工夫を凝らし、ずっと居たくなるような快適な学舎が完成することを期待しています。その他、大学の教学組織拡充(5学部6学科構想)など、一層の学園教育力向上に努めてまいります。「何ができるのか、何をすべきか。」実践しなければ達成できない、失敗すれば修正すればよい、「やってみよう!」のチャレンジ精神を教職員が率先垂範する。それが玉手山学園の教職員です。

2015年度の学園事業計画を策定しました。教職員が各自の役割を自覚し総力を結集されるようお願いいたします。

学校法人 玉手山学園  
理事長 江端 源治

## 建学の精神「感恩」

人は様々な恩恵を享受し 生かされている

この真理に目覚め 感動と感謝から発する豊かな心と情熱をもって

人の幸せを願い行動するとき 私たちは社会に貢献できる

～「ありがとう」に出会い気づき 感動 感謝の行動から

新しい「ありがとう」が生み出されていく～

## 学園の使命

建学の精神「感恩」を体し 人の絆に目覚め 高い志をもち

幸せを願い行動する人を育成し 豊かな社会の構築に寄与する

## 経営方針

1. 学生 生徒 園児のもてる力 志をひきだし 次代を担う人を育成する  
その教育実践により 学園教職員も豊かになる
2. 教育人としての自覚のもと 自己の能力および人格の向上に努め その使命 責務を誠実に  
遂行し 人類の未来を拓く「知」の継承 伝達 創造 発展に寄与する
3. 各校園は 伝統を重んじ 教育理念 目的のもと 具体的な教育目標を掲げ 常に改革の意  
識をもって 創意工夫を重ね その達成に総力を結集する
4. 継続 改革 発展を支える確かな組織力と健全な財政基盤の確立に努める

## ビジョン

### 【玉手山学園がめざすもの】

1. 豊かな心 教養 高い志の育成  
～笑顔 あいさつ 優しさを大切にし 夢に近づき成長する学園～
2. 学園教育力の向上
  - ・教育の質向上（学修成果・修学成就の向上）
  - ・組織拡充
  - ・4 校園体制堅持
  - ・健全収支
3. 地域貢献 社会に必要とされ愛される学園
4. 教育環境（安心 安全 快適 ECO）充実
5. 学園総合力の向上と学園ブランドの確立
  - ・各校園の相互協力（学園ファミリー意識）

## II. 法人の概要

### 1. 設置する学校

学校名	学部・学科・専攻等	開設年度	
関西福祉科学大学	社会福祉学研究科	臨床福祉学専攻（博士前期課程）	平成13年
		臨床福祉学専攻（博士後期課程）	平成15年
		心理臨床学専攻（修士課程）	平成15年
	社会福祉学部	社会福祉学科	平成9年
		臨床心理学科	平成15年
	健康福祉学部	健康科学科	平成15年
		福祉栄養学科	平成15年
	保健医療学部	リハビリテーション学科	平成23年
		理学療法学専攻	
		作業療法学専攻	平成27年
言語聴覚学専攻			
	特別支援教育専攻科	平成22年	
関西女子短期大学	保育学科	昭和40年	
	養護保健学科	昭和42年	
	歯科衛生学科	平成17年	
	医療秘書学科	平成23年	
	医療秘書学専攻科	平成23年	
関西福祉科学大学高等学校	全日制課程普通科	昭和17年	
関西女子短期大学附属幼稚園		昭和40年	

### 2. 学生・生徒・園児数

< 関西福祉科学大学 >

(単位:名)

研究科・学部・学科・専攻等		入学 定員	編入学 定員 (3年次)	学年 進行中の 収容定員	在籍者数 H27.4.1				H26年度 卒業生数
					1年生	2年生	3年生	4年生	
社会福祉学研究科	臨床福祉学専攻(博士前期課程)	20	0	40	3	5			2
	臨床福祉学専攻(博士後期課程)	3	0	9	0	2	3		1
	心理臨床学専攻(修士課程)	10	0	20	10	12			14
大学院 計		33	0	69	13	19	3		17
					35				
社会福祉学部	社会福祉学科	180	40	860	172	164	185	199	174
	臨床心理学科	70	20	350	59	76	82	54	50
計		250	60	1,210	231	240	267	253	224
					991				
健康福祉学部	健康科学科	80	10	350	87	90	87	88	71
	福祉栄養学科	80	5	330	87	74	79	84	75
計		160	15	680	174	164	166	172	146
					676				
保健医療学部	リハビリテーション学科	160	0	520	184	133	134	111	81
	理学療法学専攻	80	0	320	88	86	88	77	56
	作業療法学専攻	40	0	160	57	47	46	34	25
	言語聴覚学専攻	40	0	40	39	—	—	—	—
計		160	0	520	184	133	134	111	81
					562				
大学 計		570	75	2,410	2,229				370
特別支援教育専攻科		40	0	40	9				0

※社会福祉学科、臨床心理学科、健康科学科は平成25年4月より入学定員変更

社会福祉学科 240名→180名、臨床心理学科 100名→70名、健康科学科 90名→80名

※言語聴覚学専攻は平成27年4月開設

< 関西女子短期大学 >

(単位:名)

学科・専攻科	入学定員	収容定員	在籍者数 H27.4.1			H26年度 卒業生数
			1年生	2年生	3年生	
保育学科	100	200	120	107		100
養護保健学科	40	80	50	46		45
歯科衛生学科	100	300	113	111	108	92
医療秘書学科	60	120	55	47		71
短大 計	300	700	338	311	108	308
			757			
医療秘書学専攻科	10	10	0			1

< 関西福祉科学大学高等学校 >

(単位:名)

学校名	入学定員	収容定員	在籍者数 H27.4.1			H26年度 卒業生数
			1年生	2年生	3年生	
関西福祉科学大学高等学校	270	790	378	325	357	213
高校 計	270	790	1060			213

※入学定員は公募入学定員を表記 (H25年度 250名、H26年度 270名、H27年度 270名)

学則上の入学定員は 470名

< 関西女子短期大学附属幼稚園 >

(単位:名)

学校名	入学定員	収容定員	在園児数 H27.4.1				H26年度 卒園児数
			最年少	年少	年中	年長	
関西女子短期大学附属幼稚園	—	495	0	130	119	117	125
幼稚園 計	—	495	366				125

※最年少は満3歳児クラスを示す

### 3. 専任教職員数

(単位：名)

学校名	H27年度現員 (H27.4.1)		計
	教員	職員	
関西福祉科学大学	118	55	173
関西女子短期大学	37	13	50
関西福祉科学大学高等学校	59	5	64
関西女子短期大学附属幼稚園	20	0	20
法人	0	3	3
法人本部	0	19	19
関西福祉科学大学附属総合リハビリテーション診療所	0	6	6
合 計	234	101	335

[専任教員内訳] (H27.4.1)

< 関西福祉科学大学 >

(単位：名)

学部・学科	大学設置基準上 必要な専任教員数		教授		准教授		講師		助教		助手		計		
	専任教員	うち教授	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
社会福祉学部	社会福祉学科	14	7	8	7	3	4	2	4	1	2	0	0	14	17
	臨床心理学科	10	5	7	4	1	3	1	0	0	0	0	0	9	7
健康福祉学部	健康科学科	14	7	5	4	2	3	1	2	0	0	0	0	8	9
	福祉栄養学科	10	5	7	1	2	4	1	1	0	0	0	0	10	6
保健医療学部	リハビリテーション学科	16	8	8	3	7	7	3	4	3	1	0	0	21	15
大学全体の収容定員に応じ定める専任教員数		25	13												
合 計		89	45	35	19	15	21	8	11	4	3	0	0	62	54

※心理・教育相談センター教員2名除く

※専任教員数には、学長・副学長兼務者(各1名)含む

< 関西女子短期大学 >

(単位：名)

学科	短大設置基準上 必要な専任教員数		教授		准教授		講師		助教		助手		計		
	専任教員	うち教授	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
保育学科	8	3	2	2	0	2	1	2	0	0	0	0	3	6	
養護保健学科	4	2	2	1	0	2	0	1	0	0	0	0	2	4	
歯科衛生学科	6	2	2	5	0	1	0	0	0	3	0	3	2	12	
医療秘書学科	4	2	0	2	0	2	0	1	0	3	0	0	0	8	
短期大学全体の収容定員に応じ定める専任教員数		5	2												
合 計		27	11	6	10	0	7	1	4	0	6	0	3	7	30

※ 専任教員数には、学長・副学長兼務者(各1名)含む

< 関西福祉科学大学高等学校 >

< 関西女子短期大学附属幼稚園 >

(単位：名)

学校名	専任教員数		計
	男	女	
関西福祉科学大学高等学校	41	18	59
関西女子短期大学附属幼稚園	2	18	20

### Ⅲ. 事業計画の概要（重点施策）

#### 関西福祉科学大学

1. あいさつ、笑顔の励行（教職員から学生に）
2. 学生の修学力向上
3. 国家試験、各種資格試験等の合格支援
4. 学部組織再編成構想の推進と開学準備
5. 地域連携センターの設置と実働開始

#### 関西女子短期大学

1. ミッション（使命、役割）の明確化と広報活動の充実
2. 教育改革推進
3. 就職活動支援とキャリア形成支援の充実
4. 学園内学校園との連携強化
5. 創立 50 周年(2015 年)記念事業・行事の立案・実施  
・新校舎建設

#### 関西福祉科学大学高等学校

1. 生徒が生き生きと学校生活に励むことができるよう次の 5 項目を実践
  - ① 授業を大切にす
  - ② 時間を守る
  - ③ 笑顔で挨拶をする
  - ④ 「ありがとう」の心を大切にす
  - ⑤ クラブ活動を活発にする
2. 課外活動へ積極的に参加できる教育環境の整備
3. 高校新校舎の建築（平成 29 年 3 月竣工）

#### 関西女子短期大学附属幼稚園

1. 生活環境・施設整備の充実と、楽しく活気ある幼稚園の構築
2. 保育実践力、教員として望ましい資質・能力の向上
3. 子ども・子育て支援新制度施行後の、魅力ある「本学園の子育て支援体制」のあり方（認定こども園の可能性を含む）を検討
4. 創立 50 周年記念事業の短大との協同
5. 魅力的な広報活動の実施と園児の確保

#### 法人本部

1. 玉手山学園“元気”メソッド（プログラム）構想（仮称）の推進
2. 「柏玉」包括連携協定の具現化・実践
3. 高校新校舎の建築準備
4. 50 周年事業協議会の決定事項の推進・支援
5. 学園内施設・設備管理部門の連携
6. 職員の能力開発と、視野・見識の拡大

## IV. 財務の概要

### 1. 平成 27 年度予算編成の基本方針

わが学園は、建学の精神「感恩」を体し社会に貢献し得る人材を育成する。各校園は、これを全うするため、それぞれの教育目的を掲げ、その達成に総力を結集し、「教育」に邁進する。

教育事業遂行の主たる財源は、自身の成長を願う学生・生徒・園児からの学納金である。彼らを伸ばし育てるため、限られた財源で最大限の教育効果をあげなければならない。平成 27 年度の学園予算編成基本方針を以下に示す。

1. 発展的継続・改革を支える財政基盤の充実と強化  
部門ごとの帰属収支健全化
2. 学園第 2 期中長期計画の推進、平成 27 年度学園行動計画達成
3. 教育の質、研究力向上のための投資
4. 経営観念を持った投資効率向上による経費削減（有限の費用で大きな教育効果を）  
部門別の収支バランスを念頭においた事業採算の概念
5. 健全な収支計画に基づく総人件費の制御
6. 外部資金の積極的獲得（特別補助金・各種補助金、科研費補助金等）

### 2. 予算の概要

#### (1) 資金収支計算書（内訳表ベース）

（単位：百万円）

	平成 27 年度予算	平成 26 年度予算
資金収入合計	6,257	5,259
資金支出合計	6,592	6,223
資金収支差額	Δ 335	Δ 964

平成 27 年度予算は大学の教学組織再編、短大及び高校新校舎建設等積極的な投資を含んだ予算となり、平成 26 年度同様収支の均衡を欠く予算編成となりました。

資金収入は厳しい学生募集環境の中、学生・生徒数の増加による学納金の増加、短大校舎建設特定資産からの繰入収入、借地の契約満了に伴う差入保証金の回収等で資金収入合計は前年度比 998 百万円増の 6,257 百万円となりました。

資金支出は言語聴覚学専攻新設に関わる教員増等による人件費増、大学教学組織再編、短大新校舎建設等の積極的投資により資金支出合計は 369 百万円増の 6,592 百万円となりました。

その結果、資金収支差額が 335 百万円の支出超過となり、次年度繰越資金が減少する予算編成となりました。

#### (2) 消費収支計算書・事業活動収支計算書

（単位：百万円）

	平成 27 年度予算	平成 26 年度予算
帰属収入合計（イ）	5,313	5,259
基本金組入額	Δ 688	Δ 1,188
消費収入合計（ロ）	4,625	4,071
消費支出合計（ハ）	5,915	5,242
消費収支差額（ロ－ハ）	Δ 1,290	Δ 1,171
帰属収支差額（イ－ハ）	Δ 602	17

消費収支においても資金収支と同様の要因により、帰属収入合計は前年度比 54 百万円増の 5,313 百万円となりました。今年度の基本金組入は前年度に引続き短大校舎建設、高校校舎建設に伴う第 2 号基本金の組入れ、教育学部新設に伴う施設・設備増等がありましたが、前年度比 500 百万円減の 688 百万円となりました。その結果、消費収入合計は前年度比 554 百万円増の、4,625 百万円となりました。

消費支出は大学教学組織再編に伴う教育研究経費増、高校新校舎建設に伴う旧校舎の処分差額等により前年度比 673 百万円増の 5,915 百万円となりました。その結果、帰属支出超過額は前年度比 619 百万円増の 602 百万円となりました。

消費収支差額の支出超過額は 119 百万円増の 1,290 百万円となり、翌年度繰越消費収支差額は支出超過となる予算編成となりました。

### 3. 主要財務指標

	H24 年度	H25 年度	H26 年度 (予算)	H27 年度 (予算)	全国平均 (H25 年度)
人件費比率	67.1	63.4	59.0	60.1	52.4
人件費依存率	92.5	84.0	77.9	78.4	72.4
教育研究経費比率	28.5	31.4	29.5	31.5	31.5
管理経費比率	11.0	11.2	10.8	11.2	8.8
帰属収支差額比率	△6.7	△6.8	0.3	△11.3	5.2
消費収支比率	116.4	126.0	128.8	127.9	107.8
学生・生徒等納付金比率	72.6	75.4	75.7	76.6	72.4
補助金比率	18.5	19.3	19.2	18.6	12.8
減価償却費比率	10.1	9.6	9.7	8.5	11.7

(%)

(医歯科系法人を除く)

◇ 各比率は以下による

人件費比率	(人件費／帰属収入)
人件費依存率	(人件費／納付金)
教育研究経費比率	(教育研究経費／帰属収入)
管理経費比率	(管理経費／帰属収入)
帰属収支差額比率	(帰属収入－消費支出／帰属収入)
消費収支比率	(消費支出／消費収入)
学生・生徒等納付金比率	(納付金／帰属収入)
補助金比率	(補助金／帰属収入)
減価償却費比率	(減価償却費／消費支出)

以上